

AALA ニュース 95号の内容紹介

編集部

あけましておめでとうございます。今号が2022年最初の号となります。今年もよろしく願いいたします。

今号は5本の記事が掲載されます。

1. トリコンチネンタル「編集部からの年越しの挨拶」

「トリコンチネンタル」はキューバに本拠を置く国際政治研究機関「三大陸人民機構」の機関誌です。機関紙とは別に週1回のニュースレターを発行していて、2021年の世界の動向が要領よくまとめられています。これが21年度の最終号（52号）に当たります。

2. ベネズエラ・アナリシス「ベネズエラ_石油は増えインフレは収まりつつある」

年末にあたっての今年度の経済と暮らしの動きをまとめたものです。「正義は勝つ!」というか、お正月らしくちょっと景気のいい話です。

3. NACLA「コスタリカ：危機に瀕する民主主義」前編

NACLAはThe North American Congress on Latin Americaの略称です。50年以上の歴史を持ち、LAに関する豊富な情報を提供し続けています。

本論文は今年行われる総選挙を前にして、第二次大戦直後からの政治の流れを振り返り、政治混迷の背景を探っています。「コスタリカ教信者」の方にお勧めします。長いので前後に分けました。

4. NACLA「コスタリカ：危機に瀕する民主主義」後編

5. The Bullet「貧しい国々と緑の帝国主義」

この記事はインドのデジタルメディア「Newsclick.in」からの転載で、著者の Prabir Purkayastha もインド人です。

緑色帝国主義は Green-Washed Imperialism を訳したもので、ウィキペディアによると、緑色のペンキを塗って「環境主義」のフリをした帝国主義という、きつい皮肉です。